

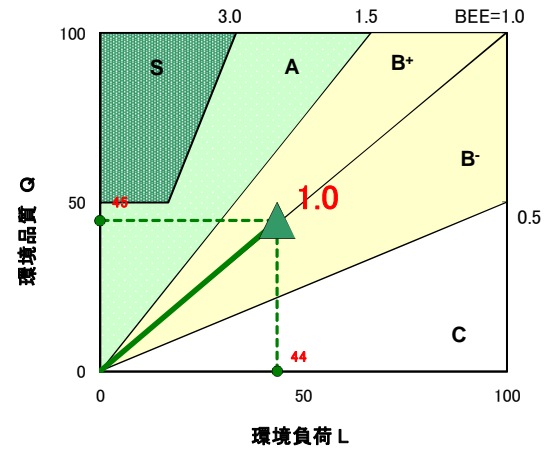
CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)ドラッグコスモス 松橋店 新築	階数	地上 1F		
建設地	熊本県宇城市松橋町曲野字片林118	構造	S造		
用途地域	指定なし	平均居住人員	0 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年		
建物用途	物販店,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2015年5月30日		
敷地面積	6,329 m ²	作成者			
建築面積	2,312 m ²	確認日	2015年5月30日		
延床面積	2,240 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★



環境品質 G

環境負荷 L

BEE=1.0

44

BEE = 1.0

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)


☆☆☆☆☆

排出率

83%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価








重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	87.5
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	61.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	67.8
【重点事項4】 循環型社会の実現	72.7

評価点

75

■ 熊本県重点評価基準

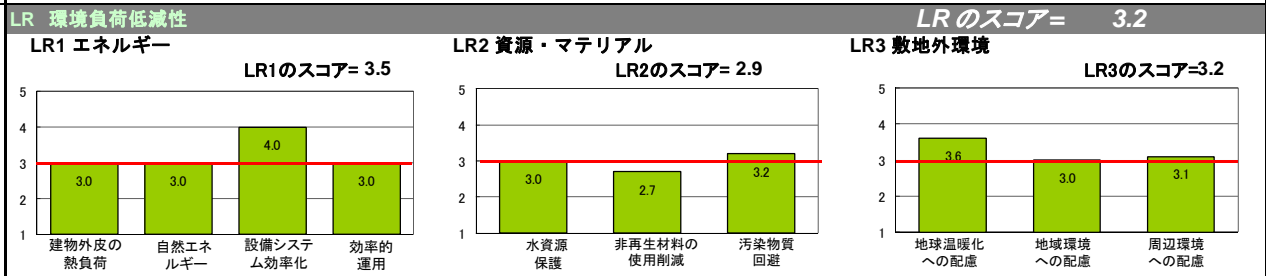
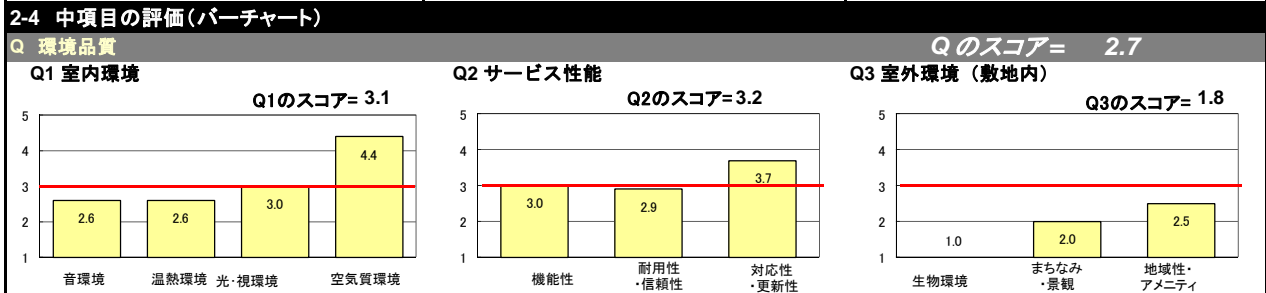
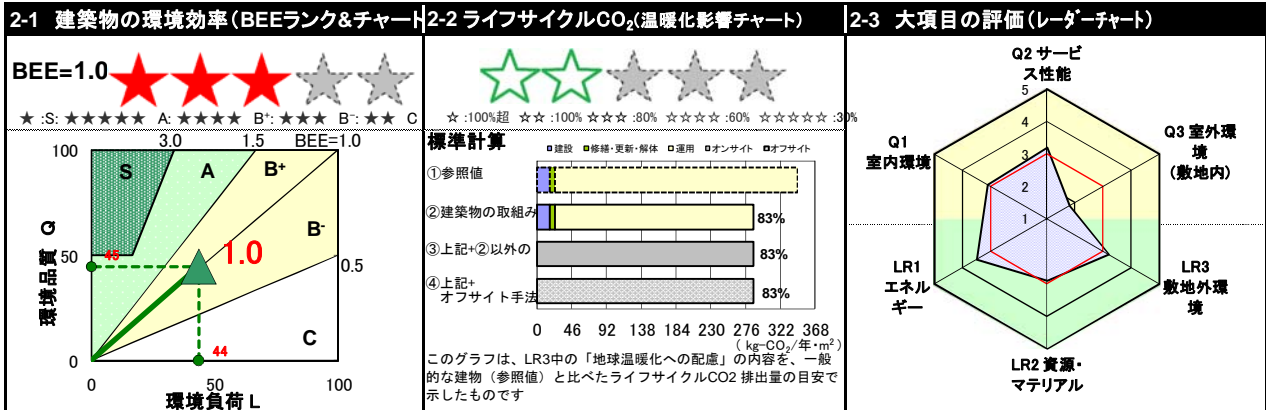
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ドラッグコスモス 松橋店 新築	階数	地上 1F
建設地	熊本県宇城市松橋町曲野字片林1	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	0 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2015年5月30日
敷地面積	6,329 m ²	作成者	
建築面積	2,312 m ²	確認日	2015年5月30日
延床面積	2,240 m ²	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境					0.40			3.1
1 音環境				2.6	0.15			2.6
1.1 騒音				3.0	0.40			
1.2 遮音				3.0	0.40			
1 開口部遮音性能				3.0	1.00			
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音				1.0	0.20			
2 温熱環境				2.6	0.35			2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50			
1 室温				3.0	0.50			
2 外皮性能				3.0	0.17			
3 ゾーン別制御性				3.0	0.33			
2.2 湿度制御				1.0	0.20			
2.3 空調方式				3.0	0.30			
3 光・視環境				3.0	0.25			3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.50			
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備				3.0	1.00			
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御				3.0	0.50			
4 空気質環境				4.4	0.25			4.4
4.1 発生源対策				5.0	0.50			
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の積極的な採用		5.0	1.00			
4.2 換気				3.0	0.30			
1 換気量				3.0	0.50			
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50			
4.3 運用管理				5.0	0.20			
1 CO ₂ の監視				-				
2 喫煙の制御		売場・倉庫ともに室内に禁煙スペースなし		5.0	1.00			
Q2 サービス性能					0.30			3.2
1 機能性				3.0	0.40			3.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40			
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画				3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性				2.6	0.30			
1 広さ感・景観		売場天井高さ:4.5m		5.0	0.33			
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33			
3 内装計画				1.0	0.33			
1.3 維持管理				3.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		仕上材を傷めずに設備の更新が可能		4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30			2.9
2.1 耐震・免震				3.0	0.50			
1 耐震性				3.0	0.80			
2 免震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20			

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	2.6	0.20	[Pattern]	-	3.7
	2	給排水・衛生設備	3.0	0.20		-	
	3	電気設備	2.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法	3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備	3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.7	0.30	[Pattern]	-	3.7
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり	5.0	0.30	[Pattern]	-	
	2	空間の形状・自由さ	5.0	0.40		-	
		軒高さ:7.300m	5.0	0.60	[Pattern]	-	
		壁長さ比率:219.60+0.00/2240.00=0.098	5.0	0.40	[Pattern]	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	[Pattern]	-	
3.3 設備の更新性	3.3 設備の更新性		3.4	0.40	[Pattern]	-	
	1	空調配管の更新性	4.0	0.20			
	2	給排水管の更新性	4.0	0.20			
	3	電気配線の更新性	3.0	0.10			
	4	通信配線の更新性	3.0	0.10			
	5	設備機器の更新性	3.0	0.20			
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20			
		天井懐が高く、スペースが確保されている 構造部材を傷めないで更新が可能	4.0	0.20	[Pattern]	-	
			4.0	0.20	[Pattern]	-	
			3.0	0.10	[Pattern]	-	
			3.0	0.10	[Pattern]	-	
			3.0	0.20	[Pattern]	-	
			3.0	0.20	[Pattern]	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	[Pattern]	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	[Pattern]	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	[Pattern]	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	[Pattern]	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	[Pattern]	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	[Pattern]	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	[Pattern]	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	[Pattern]	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	[Pattern]	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	[Pattern]	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 0.82 住宅(専有部) 0.83	4.0	0.50	[Pattern]	4.0
		集合住宅以外の評価(3a,3b)	高効率空調の採用	4.0	1.00	[Pattern]	-
		集合住宅の評価(3c)		-	-	[Pattern]	-
4 効率的運用			3.0	0.20	[Pattern]	-	3.0
		集合住宅以外の評価	3.0	1.00	[Pattern]	-	
4.1		モニタリング	3.0	0.50	[Pattern]	-	
4.2		運用管理体制	3.0	0.50	[Pattern]	-	
		集合住宅の評価			[Pattern]	-	
4.1		モニタリング			[Pattern]	-	
4.2		運用管理体制			[Pattern]	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	[Pattern]	-	2.9
1 水資源保護			3.0	0.20	[Pattern]	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	[Pattern]	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	[Pattern]	-	
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	[Pattern]	-	
2		雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	[Pattern]	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	[Pattern]	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	[Pattern]	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	[Pattern]	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	[Pattern]	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	[Pattern]	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	[Pattern]	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げが容易に分別可能	4.0	0.22	[Pattern]	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20	[Pattern]	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	[Pattern]	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	[Pattern]	-	
1		消火剤	4.0	0.33	[Pattern]	-	
2		発泡剤(断熱材等)	3.0	0.33	[Pattern]	-	
3		冷媒	3.0	0.33	[Pattern]	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	[Pattern]	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			省エネルギー設備の導入	3.6	0.33	[Pattern]	3.6
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	[Pattern]	-	3.0
2.1 大気汚染防止		燃焼機器使用なし	5.0	0.25	[Pattern]	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	[Pattern]	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	[Pattern]	-	
1		雨水排水負荷低減	-	-	[Pattern]	-	
2		汚水処理負荷抑制	3.0	0.33	[Pattern]	-	
3		交通負荷抑制	5.0	0.33	[Pattern]	-	
4		廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.33	[Pattern]	-	
		自転車置場の確保、駐車スペース・駐車施設の確保			[Pattern]	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	[Pattern]	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	[Pattern]	-	
1		騒音	3.0	0.50	[Pattern]	-	
2		振動	3.0	0.50	[Pattern]	-	
3		悪臭	-	-	[Pattern]	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	[Pattern]	-	
1		風害の抑制	3.0	0.70	[Pattern]	-	
2		砂塵の抑制	[Pattern]	-	[Pattern]	-	
3		日照阻害の抑制	3.0	0.30	[Pattern]	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	[Pattern]	-	
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	0.70	[Pattern]	-	
2		星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	[Pattern]	-	
		初期照度補正機能の採用			[Pattern]	-	

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

外部負荷を低減するために開口部は必要最低限とした。
外壁の色、配置、夜間の照明・騒音など、近隣への迷惑・公害等が生じないように配慮した。

Q1 室内環境

建築基準法規制対象外となる建築材料を採用し、良好な空気環境に努めた。

Q2 サービス性能

売場の天井高さを高くし、売場の仕切壁を減らすことで、開放的でゆとりのある空間とした。

Q3 室外環境（敷地内）

防犯性に配慮した死角のない環境作りに努めた。

LR1 エネルギー

エネルギー効率の良いLEDなどの機器を採用し、エネルギー使用の効率化を図った。

LR2 資源・マテリアル

躯体と仕上げが容易に分別できるようにした。

LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

その他

注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)ドラッグコスモス 松橋店 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		75
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87.5	0.40	35.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.08			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.07			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				61.2	0.20	12.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				67.8	0.20	13.56
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.29			
LR2-1.1	節水	3.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				72.7	0.20	14.54
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。
※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数